京城新報

●購讀料 [illegible]
●廣告料 [illegible]
●陰曆 三月廿八日
發行編輯兼印刷人 秋山忠三郎
發行所 京城西署西小門通 京城新報社 電話六三番

韓國に働きたる人物 其十五
竹内綱と尾崎三良（中）

▲尾崎三良と云へば、東京は麻布の材木町に大なる邸宅を構へて居る新華族であることは、讀者も先刻御承知であらう、さなくとも今の東京市長憲政黨内閣の文部大臣、三重縣代議士愕堂の宿爾、尾崎行雄の令夫人、テオドル尾崎の嚴父であることは、何人も知つてるだらう、

▲筆の序だから書くが、尾崎夫人テオドルが私生兒であることも讀者の知る所であらう、之に尾崎三良が嚴父とすれば母は外國人であることは當然だ、然らば尾崎三良の妻君は外國人であるかと云へば、そうでない、純然たる日本婦人である、さらばテオドルは私生兒でなければならぬ、そは何故であるか、知らぬ人もあらうから、筆が岐路に渉るが、一寸記して見よう、

▲尾崎三良も青年時代には、中々秀才で前途頗る有望であつた、笈を負ふて英國は倫敦の都に留學した、英國人で親切なる紳士が三良の拔目なき怜悧なる所に惚れ込み、何くれとなく世話して呉れた、然るに其紳士に令嬢がある、芳紀將さに十八九、番茶も出花で楚々たる風情は男子を惱ますに足る、三良尾崎は名うての好物、殊に燃ゆるが如き青年時代、矢も楯もたまらず、渠は其巧慧なる口調を以て、蜜の如く甘き語で啻かに言ひ寄つた、此令孃も父の讃めるのと好奇心に驅られて情交を許したのである

▲青春に燃ゆる兩人は情交益々厚く行末長く琴瑟の對いは離れじと堅く約束したのである、其結果として令孃は懷胎した、三月四月は袖でも匿すの假令の如く、今は包まれぬ場合となり、兩人は父の前に有りし顛末を語りて許しを請ふた、父は既に之を察せしも、尾崎の見込あるを以て暗に許し居れる場合なれば何等の叱責も受けず許されたに兩人は天に上る程に喜んだ、斯くして父の勸めにより兩人は寺院に於て結婚式を擧げたのである、而して天下晴れての夫婦となつた、

▲月は滿ちて玉の如き女兒を分娩した、之が即ち今の尾崎行雄の夫人テオドル尾崎である、兩人と老父とは其女兒を蝶よ花よと愛み、三良は異鄕の客も打忘れて樂しき月日を送て居つた、然るに餘儀なき事情の爲に三良は歸朝せねばならぬ事となり、其仔細を打開け、用事を果せば直に歸り來るべく誓ひ、温き接吻によりて暫しの別を惜み涙を以て歸朝したのである、神ならぬ身の之ぞ父子夫婦の永き別であることは知る由もなかつたのである、

▲三郎尾崎は久し振りで歸朝した、故國の天地は亦別にて、用事は濟みしも英國に戻ることは更に斷念した、人の勸める儘に新に妻を娶ることになつた、輕躁なる渠は英國の妻子のことは忘れたのである、然るに英京の妻子は鶴首して其の來るを待つた、何時迄待つても更に來らず、書狀を出しても何の便りもない、玆に始めて三良の浮氣男に欺れたるを悟つたが既に遲しである。

●忠南扶餘の近狀

扶餘附近は四月以來賊徒の横行せし事二回にして何れも西北方鴻山郡外山面靑陽郡南下面及び定山郡冠面に接したる境界は山脈相連れり定山靑陽鴻山及扶餘等の各官憲所在地へは何れも三四里を隔て居る爲め憲兵分遣所新設前は殆んど官權の行はざる姿にして分遣所設置日尙淺きを以て賊徒は從前の如く徘徊し居るも三四ヶ月討伐に盡力せば必ず一掃するを得む近來扶餘より東南は稍々平穩にして分遣所設置以來良民安堵の模樣あり各村落の財産家及び開化せる者は憲兵に對し遺憾なく歡迎しつゝあるも下等人民に至りては何等の感覺もなく單に憲兵の來往するを知れるに止まり中には倭兵の來り五月蠅抔誤解し居る等未だ官憲に服從の念薄し又居留邦人も分遣所設置以前は戰鬪力を有する者は只巡査一人のみにて在住邦人は何時賊徒の來襲を受くるや難計しとて就寢するにも銃器を枕下に置き足袋を穿ち家族に到る迄帶を解くことなく常に避難し得る丈けの準備を整へありし狀態にて在住邦人にとりては一層恐怖の折柄分遣所設置に付非常なる歡迎を以て歡迎し居れり而して農業移民は最初は約七十戸人口約二百人の多數ありしも賊徒蜂起以來退去し中には農事經驗なき者或は經營良好ならざりし爲め又は昨年末迄は勸農會社より食料を貸與し來りたる處本年一月よりは之を停止したる爲め收穫期迄糊口を支ゆる能はず等の事情に依り四月十日頃四戸退去し或は日本に歸還し又は京城其他の各地に轉住する者續々ありしを以て目下殘住者は九戸三十六人に減じたるを以て勸農株式會社に於ては善后策を講ずる爲め役員の會議中なりと云ふ

●錦川近況

全羅北道錦山郡は交通甚だ不便なるに不拘農商業比較的發達し工業等に留意するもの漸次增加の傾向あり又一部八士間には殖林事業を企圖し居るものあるも未だ着手の運に至らず初等教育機關として共立小學校の設けあるも本年一月以降基金欠乏の爲め一時閉鎖の止むなきに至れり然るに現任郡守は國民教育の最大急務なるを說き斡旋盡力したる結果四月上旬再び開校を見るに至り目下韓人教師二名を聘し日語漢文數學算術及体操等を教授し居れり韓民の日本人に對する感情性質漸次良好にして就中憲兵に對しては最も信頼し居れるが如く他に分遣所移轉する等の言を聞かば頻りに之を憂慮し地方平穩なるは全く憲兵の力にして一朝他に移轉せられんか到底治安を望むべからず若し他に轉ずるが如き事あらば機を逸せず其筋に請求して爲し得る限り長期の留任を希望する旨郡守の許に續々陳情し來るもの多しと云ふ而して此地在住の邦人商人にして客月以來三名增加し合計五戸になれり（雜貨三菓子一貸金一）尙目下開店準備中のもの一名あり然れども之等は何れも憲兵の駐在に依頼し來るが如く最初は狀況視察として來ると均しく憲兵の駐在期間を尋ねること比々皆然らざるはなし且又自衞團の狀況は錦山自衞團組織以來漸次發達の傾向ありしも近來農業の初期に際し晝間の巡邏等は殆んど實行せられざる爲め隨て夜間の巡邏等も分遣所々在地を除くの外は全然廢絶の姿なるを以て極力團長以下を督勵しつゝあるも實蹟を擧ることは殆んど不可能の狀態なりと云ふ

●明堂洞の戰鬪

平南道順安郡主事より四月十八日午後六時賊徒數名五柳洞附近に來襲し金品強奪中との情報に依り平壤憲兵分隊順安分遣所憲兵五名は巡査三を同行即時同地に急行す沿道村落を搜索し十九日午前一時三十分明堂洞南端の步哨と衝突次で同地に宿營せる約百二三十の賊と同所に戰鬪し交戰約二時間にして之を東北方山中に擊攘したるも深夜暗黑にして彼の損害を知る能はず玆に警急舍營をなす然るに午前六時其の殘敗者約六十名は明堂洞の東北山上より我宿營地に向ひ瞰射せり一行は直に應戰したるも暫時にして後方山中に遁逃す一行は東北方に追躡約一里舟巖に至り敗殘賊徒約二十名朝食を喫しつゝあるを探知し直に射擊其二を殪し五を傷け之を北方に滑走せしめ尙急追一里にして遂に踪跡を失す鹵獲品は銃器三挺揃川一散彈九十一其他雜品多數ありたり

●驪州の賊

驪州郡池内面雲村に二十三日未明銃器を携帶せる暴徒十余名同地面長李鍾植方に突入したるに依り李鍾植は直に逃避せしに其父（六十）を拉去し康川面金巨倫に向ひ退去せり

●天與の好肥料

今回韓國水産調査の爲め北部沿岸を踏査したる釜山理事廳技師林駒生氏の談を聞くに機張、蔚山兩地沿岸に渉りて多產する褐藻類の海草に『ホンダワラ』といふがあり場所によりては海波を揚得ざる迄繁茂し居れる由なるが此海草は同地に於ける農家の堆肥原料にして特に採取船の設備あり目下採收時期に際せる爲め附近の海汀一帶は昆布を敷きたる如く足土を踏み得ざるまでに堆積しあり未だ學理研究をなさざるも作物に施す海草肥料としては充分に有効なるを認むるに難からず由來韓國に於ける農事經營難は一に施肥料の不足にあり現に浦項に於ける彌昌洋行の如きは五十餘町步の耕地を有しながら尙よく充分い好果を擧ぐるに困じつゝあるも同じく肥料の不足に依れるのみ而かも他方に於ては殆んど無盡藏とも稱すべき此天與の好肥料あり之に相當の施設をなし肥料原料を一に此ホンダワラに仰ぐに至らば韓國の農業發展上至大の便あるに至るべく當業者の一顧を煩はすの價値あるべし其產額に至つては前記の如く殆んど際限なく產出するを以て之を堆肥となし更に乾燥して輸送せば容積も多大ならず輕便に搬送し得べく農事經營者の福音として玆に紹介するを憚からざるなり

●仁川紀念祭寄附金に就て

仁川開港二十五年紀念祭擧行に就て之れに要する經費金三萬圓を一般有志の寄附に俟つ事は既報の如くなるが今寄附金募集並に福引券發行等に干する次第を聞くに如左

一　寄附金募集期間は本月廿三日より五月十日迄とす

一　寄附金は一口金五圓とし一口に對し大福引券繪葉書（福引番號は繪葉書の封皮に記載す）一組（五枚）を贈呈す但便宜五圓以下と雖ども之れを受け前記大福引付繪葉書は　圓につき一枚の割合を以て贈呈す此場合に於ける繪葉書一枚の當籤權は別項記載の景品に對する五分の一を獲るものとす

一　大福引付繪葉書は寄附金受領と同時に本會々印及會長印押捺の受領證に添へ之れを贈呈す

一　福引景品總價格を金一萬五千圓（六千本）とし之れを左記の各等に分つ

一等	金五千圓（勸業債券一千圓宛）	五本
二等	金一千四百圓（七百圓宛）	二本
三等	金一千圓（五百圓宛）	二本
四等	金九百圓（三百圓宛）	三本
五等	金一千圓（二百圓宛）	五本
六等	金七百圓（一百圓宛）	七本
七等	金五百圓（五十圓宛）	十本
八等	金六百圓（三十圓宛）	二十本
九等	金千四百圓（二十圓宛）	七十本
十等	金千八百圓（十圓宛）	百八十本
等外	金七百圓（商品）	五千六百九十九本

一　福引抽籤は來る五月十八日日本公園に於て最新式精巧緻密なる抽籤器を以て最も公正確實なる方法に依り之れを執行し當日は本會々長以下各係委員並に在仁川各新聞社員立會す

但し前記抽籤の日時及福引等は確定の上新聞紙上を以て廣告す

一　福引當籤番號（一等より十等迄は）仁川各新聞紙上に廣告す

一　景品は番號付繪葉書封皮持參の者に直ちに引替交付す

但し抽籤當日より三十日間を有効期とし該期間内に交付方申出なき時は棄權したるものと見做し効力を失ふ之れに對する分は本會に於て慈善事業又は公共事業中に之れを寄附す

●銀行會社在庫品
（仁川商業會議所調査）

本年三月末に於ける仁川三銀行及倉庫會社在庫品調は左の如し

品	單位	數量
（一）綿絲綿布類		
和金巾	反	一、四四〇
洋金巾	同	二、一二九
晒金巾	同	一〇〇
紡績絲	梱	一、五一〇
打綿	六〇斤	二一七個
韓木綿	五〇疋入	一四
韓麻布	疋	五、一六三
吳服太物	個	二八
晒木綿	二百疋入	一八
眞田紐	個	一六
（二）穀物類		
精白米	五斗入	六、九〇〇叺
	八斗入	八〇〇
白米	五斗入	二、七六三
	三斗入	三、八四四
韓白米	五斗入	二、九一八
玄米	同	五八、七〇三
糯米	四斗入	九九
籾	一石入	一、三〇九
大麥	五斗入	一三六
小麥	同	二、一三一
大豆	同	八、一六一
小豆	同	七一八
綠豆	同	四五三叺
蕎麥	同	二八三
雜穀	同	一一七俵
（三）金屬品類		
鉄板（厚五分巾四尺長八尺）	枚	一、七一〇
錏板（厚一分巾四尺長八尺）	枚	一、三〇〇
薄鐵板	束	一一〇
リベット	鑵	三三五
ナット	同	一二〇
亞鉛浪板	枚	二、九一四
（四）雜貨類		
砂糖	百斤入	五六九
麥粉	袋	四四八
素麵	箱	三〇
疊表	束	九九八
鑵叺	三〇束	二、〇九五個
繩	一五〇束	二、〇五五
明太魚	百五十斤	二五〇
若目	個	九一三
硝子	同	一、五三六
韓紙	同	六七二
牛皮	同	二九六
昆布	同	一七
ウヰスキー	同	一九
卷莨	同	一、一〇六
金口烟草	三萬本入	四三
刻莨	個	二七一
韓葉莨	同	一二四
支那葉莨	同	一二〇
洋紙		一六
藥品		二一
茶		七
其他雜品		三二七

小説　新不如歸（四）
篠原嶺葉著

日露の風雲はますます不穩に傾いて、今に談判破裂して、砲彈は雨と注ぎ、鮮血は川をなさんと、五千萬の國民何れも天の一方を睨むで、雲行奈何にと氣ふ折柄、露國陸軍大臣クロパトキンは突然我國に來遊したのである。

齊天の霹靂ッ、此報導が新聞に揭げられると、國民の多くは啞然として五里霧中に彷徨ふた。いや獨り多くの國民ばかりぢやない、社會の先覺者を以つて任じて居る新聞社も、現在外交の衝に當つて居る當局者までが意外に驚いたのである。外交に比較的疎い多くの國民の驚くは然まで怪しむべきではないが、遺憾なく通信機關を備へて居る新聞社や、現に外交に與つて居る當局者が驚いたは何故であらうか。それは言ふまでもない、日露事件の爭點たる滿洲の軍事的經營に、最も重大の關係を有つて居る陸軍大臣が、其事件の今にも破裂せんとする場合に臨んで、突然來遊したからである。

來遊の目的は何であらうか、甲は我國の威力に怖れを懷いて皇帝の命を受けて和親の爲めに來たと云ひ、乙は我國の軍事を探察に來たと云ひ、揣摩臆說は到る所に起つた。が彼は僅かに數日靴を東京に駐めて、何の爲す所もなく飄然と西に去つた。

機會が機會だから、新聞社は固より國民の多くは、其の一擧一動も逃さじと注目して居つたが、其の西に去ると共に何れに往つたか影を見失つて了つた。

これがために風評は一層高くなつて、愈よ渠が來遊の疑問を深くした。すると、クロパトキンは意外にも、日本の風光に心醉して、須磨の浦邊に釣を垂れながら、自然の山水を友として、悠々と遊んで居ることが分つた。と、機敏な新聞社は、早くも號外を發して其の動靜を報導して居たのであつた。

實にクロパトキンは、須磨の浦なる最も眺望に富んだ唯ある旅館に滯在して、旅館より程遠からぬ濱邊に出て、從者も連れず終日釣に耽つて居た。

今日もまた小春の暑を岩蔭に避け、薄茶の背廣服を寬に着けて、穩かなる海面に絲を垂れ、竿に手應へある毎に引揚げて、獲物のある度に獨り微笑むで如何にも愉快さうであつた、すると、日脚がやゝ西に傾むいて、彼是二時過かとも思ふ頃、クロパトキンの釣して居る場所より二三間隔つた、平扁い岩の上に釣道具を肩に、突然と立つ人がある。



身には襤褸になつた粗服を纏ひ、腰には繩帶を締めて、素跣足のまゝである、些と見れば此邊に居住する漁夫の如く、敢て變つた樣子は認めぬのであるが、しかし仔細に觀察すれば、其眼底には確かに犯すべからざる威風を示して居る。

やゝ寸時突立つたまゝ、クロパトキンの釣する模樣を靜かに永見て居たが、やがて自分も徐に腰を岩の上に下して、手早く釣の準備にかゝつた。

今まで釣に一念を傾けて、無念無想の境に沈むで居たクロパトキンは、竿に手應があつたゆゑ、パッと引揚げて見ると、大きな魚は空に躍つて、魚鱗は折からの太陽に輝くのであつた。

同時に弗とツイ目前に人の姿を認めたので猜疑深さうな眼色で、睨めるが如く眺むるのであつた。

●對星樓茶話

警戒すべき暴徒は殺して鎭撫すべき暴徒となり三變して討伐すべき暴徒となり更らに四變して濟度すべき暴徒となり。

◎之を歸納すれば警戒すべきものは政權より來り、鎭撫すべきものは誤解疑惧不平より來り、討伐すべきものは生活より來る、若し夫れ濟度すべきものに至りては曰く政會の信徒也、曰く言論の機關也、曰く思想の發現也、吾人は近時此種に屬する暴徒の甚しく增加したるを見て頗る前途に悲觀を爲すを禁ずる能はず。

◎文祿の役は半島の外交をして大陸及大洋の連鎖を回復せしめたれども文明の連鎖は全く此役に於て破壞せられたり、此役を以て亞細亞文明東漸の最後と爲す。

◎保護國は十九世紀末より廿世紀の初期に於ける列强の新例にして侵略政策の反動なりとす、今や保護政策は到處に於て帝國政策によりて其不成績を證明せられつゝありとす于侵略政策を寛和せる膨脹政策の仲介は保護政策なる乎。

◎韓國に於て古今通じて國外發展の企圖を爲したること二回あり、其一は高句麗の遼東侵略なり、其二は忽必烈の勸誘によりて日本征伐となり、而かも韓國史に於ては該企圖に就て國民的教訓を有せず。

◎道書記官會議ありと聞く、希くは暴徒鎭撫の道別分擔案を立てよ、若し能く成功したるものあれば論功行賞を以て書記官より觀察使に昇進せしめよ。

◎各理事官は韓國旅行の護照に責任を有し得る乎。

◎一壯漢病むで步行に苦しみ、貧困飢餓に迫り、我門に來りて憐を乞ふ、其故を問ふ曰く我義兵の者なり、十數日前同僚暴徒に殺され獨り辛ふじて一命を得て 城に來る、救濟の途あらんと信じたればなり、今や行旅病人救濟所を以て死せんとすと、余敎へて玄海を渉りて半島に移殖したる一員なり乎暴徒の爲めに鏖死せんとせり、帝國政府如何ぞ此一員に對して面目かある。

◎韓國は事實上無主的狀態に在り、其稅金のみを收入とする韓國政府は極めて勝手なる收税ならずや。

◎京城城外の行客遊樂は南大門のみ安全なら、暴徒は亦春光を沒却せり。

◎友人其筋に關査したる排日徒の系統を以て見るに、一見すれば全然五年前の調査系統なり、排日徒は全韓人なり。

紐育電報

▲艦隊歡迎費寄附

桑港に在留せる日本人は又々回航米艦隊歡迎費として三千弗を寄付したり

▲太平洋艦隊設置

米國政府は太平洋艦隊設置の目的にてマニラに新鋭艦二十隻を派遣せり（以上二十五日東京經由）

▲米國の恐日病

元老院議院中には大統領の戰鬪艦四隻製造案に付辯護する者あり其の一人は曰く亞細亞人種の移住に關し將來日本と危險なる意見の衝突を見るに至るべく又恐らくは日本は其の國民の輿論に動かされて米國と開戰すべしと（十六日東京經由）

▲米國の大暴風

大暴風の爲め米國南部諸州吹き荒され二十階以上の家は悉く崩壞し死者二百名を生じ損害多大なり（二十七日發）

東京電報

▲兩宮御結婚勅許

竹田宮常宮兩殿下御結婚の儀今日勅許ありたり

▲滿鐵社債不成立

南滿鐵道會社の債は我鐵道國有失敗の時により談判中止となり成立の見込なし

▲兩宮御婚儀

常宮竹田宮兩殿下の御婚儀は本月三十日午前宮中皇靈殿御前にて擧行あらせらるゝ事に御治定相成りたり

▲戰沒者合祀

第十三師團其の他韓國暴徒鎭定のため三月十九日迄に戰沒したる者は今回靖國神社に合祀され其の他の者は明年合祀せらる（以上廿五日發）

▲リ將軍逝去

露國リチッチ將軍逝去に付我參謀本部及び陸軍省より鄭重なる弔電を發せり

▲海上法規會委員

本年十月倫敦に於て開催せらるゝ萬國海上法規會議には海軍省より二三名の委員を派遣する事に決せり（以上二十六日發）

各地電報

▲賊魁以下を殪す

守備騎兵隊及び第二巡査隊を以て組織せる搜索隊は昨廿五日午後四時光州郡魚頭山に集團中の暴徒を包圍攻擊し全羅南道唯一の賊魁金泰元以下多數を殪し且副將其の他を生擒し巡査隊は引續き搜索に努めつゝあり（廿六日光州發）

▲賊駐在所を襲ふ

廿三日午後十時暴徒茂長巡査駐在所に襲來せりとの報あり古阜警察分署長は直ちに出張す（廿六日群山發）

▲右續報

廿三日茂長巡査駐在所に襲來せる暴徒は約百名にして巡査は直ちに應戰し之を擊退せり（廿六日群山發）

雜報

●艦隊司令官へ下賜品　太皇帝より伊集院第二艦隊司令長官に左記の御下賜品あり承寧府總管趙民熙氏より伊藤統監に轉送方依賴し來りたりと

一、古銅色洋紋緞花瓶一、一、銀茶器一坐

●統監の李埈鎔邸訪問　伊藤統監は昨日正午十二時村田少將古谷秘書官を從へ完興君李埈鎔氏邸の午餐會に臨席せられたり

●曾禰副統監の消息　廿六日鎭南浦に到着せられたる曾禰副統監は一日滯在廿八日開城に向て出發の筈なり

●韓國經濟協會

同協會が廿五日夜を以て四月例會を兼ね會員小田柿捨二郎氏の爲に送別會を開きたることは已報の如くなるが當夜は殊の外の盛會にして食事正に了らんとするに當て幹事長市原博士は會員一同を代表し小田柿氏に向つて送別の辭を述られたり曰く

小田柿捨次郎君は本會創立の際より發起人として亦評議員として盡力せられたる有力なる會員なり而るに今回三井物産の命によりて君は本店に榮轉せらるゝことゝなりたるを以て當地を引揚げらるゝこととなれり新陳代謝は世情致方なしと雖ども吾人は君を本會より失ふことを惜しむものなり、然れども單に京城の小氏に非ずして其一擧一動は韓八道に及びたるものゝ如し彼の辨慶は日偉大なる足跡を殘して今も尚人をして彼の勇力の大なりしことを思はしむ小田柿君も亦過去六年間に於て偉大なる足跡を當國に留められたるべきを信ず而して此足跡は實よ君が當地を去られて後明かとなるべし君今や要職を以て本店に移らる必ずや韓國の小田柿より進んで世界商戰の小田柿とならるゝならん吾人は刮目して君が將來の發展を觀んとすと云々

夫より小田柿氏は幹事長及會員一同の希望により留別の辭に代へて矢野式とも云ふべき眞情流露せる過去六年間に於ける經歷談を試みられたり（其筆記は載せて別項にあり）其他會員の送別の辭ありて閉會せしは十一時頃なりし

●各道書記官會議　既報の如く各道觀察府書記官は何れも入京したるを以て昨日より向一週間內部に於て會議を催さる昨日は午後一時より開會し大臣及び次官の訓示演說あり明日は大臣會議參與官會議の當日にして大臣次官共に差支あるを以て普通の事務打合會とし明後日より本會議に入る筈なりと云ふ而して會議に列するは各道書記官十三名及び漢城府事務官なり

●赤十字社及婦人會

△赤十字社支部の增設　日本赤十字社韓國管內にては一般社業擴張上必要あり觀察所在地に支部を增設するを得るの規則を實施することゝなりたれば委員本部にては漸次各區域に定めの支部を設くるに至るべし

△道書記官招待　鶴原韓國委員總長は道書記官の來京を機とし近日赤十字社支部設置等打合せを兼ね一同を招待する由

△大橋本部主事出發　大橋次郎氏は大邱平壤に於て開催の赤十字社及び愛國婦人會總會等に參列の爲め昨二十七日出發せり

●仁川港灣地質調査　仁川稅關工事部にては仁川港灣改築の準備として必然缺くべからざる海底地質調査を開始し既に第三回まで調査を終了したることは既報せし所なるが數日前第二回の同調査を終了したれば更に第四回調査に着手せりと云ふ

●紀念祭と軍艦　來る五月擧行すべき仁川開港二十五年紀念祭に入港すべき軍艦は一等戰鬪艦生駒と決定したり

●平安道江界の衝突　昨二十七日平壤憲兵分隊長よりの電報々告に依れば江界分遣所憲兵上等兵赴任の途中二十五日江界渭原間『ギョライポウ』附近の山中に於て賊五十に出會三名を捕ふ鹵獲品銃五挺三我に損害なし

●小田柿氏留別談（韓國經濟協會送別會に於て）

幹事長並に會員諸君今夕の送別に對しては無上の幸榮に感じます、深く感謝する次第であります、私が當地に在て在留滿六ケ年間に於て最も愉快と利益とを感じましたのは二三年前近時々開かれた朝鮮研究會と實に此の經濟會とであります取分けて愉快さ利益を感じましたのは此の經濟會であります何故私が此會に對し斯く迄で愉快と利益と味を感じましたかと申せば此の會は何等の臭味をも有せず眞に不羈獨立にして人爵位置職業等の如何を問はず官となく民となく農工商となく會員は何れも平等にしてしかも各方面特種の智識經驗を有せらるゝ紳士を網羅し各自無遠慮に其得意の智識經驗を吐露する集合体として尙言葉を換へて申せば各方面特種の智識經驗の共同團體にして其人の位置等には少しも關せざる實に當京城としては否韓國としては殆ど稀に見る團體と考へます何人も一已の利益の爲め此會を利用する事能はず又此會も利用されて一個人の利益を計ることも能はざる不羈獨立の共和團体なればなり將來此會の益々發展して此國百事の經營に就ても常に公平無私にしてしかも卓絶なる意見を發表し之れが實行に全力を注ぎ此韓國に於ける一大勢力と成り此會の意見は常に韓國經營の主動力と成るまで發展致したいものと思ひます

私は精しく其起源の歷史を存じませんが度々人々の口に上る東印度會社の成立は恐らくは此會の如き團体が其基と成るものだろうと考へます米國の濠州若しくは加奈陀に於て「アングロサクソンレース」は益々發展しつゝあるのも恐らくは其基は此の會の如き團体から芽出をしたものと存せられます近く東洋拓殖會社も此國の經營に從事せらるゝ筈にて私共は最も熱心に歡迎する次第にて將來に於て此會が同會社と意見を交換することも極めて必要であらうかと思ひます

もしも官民の區別階級の高下人爵職業の如何等に依り互に障壁を設け共同する事能はざる樣にては此國の經營は到底同時にも不可能と斷言します從て私は玆に重ねて將來本會の益々發展を切望してやまざる次第でござります同時にかゝる名譽を有せらるゝ本會員諸君より今夕の御送別を辱ふするは眞心より無上の光榮を感じ滿腔の感謝を表する次第でござります

若し諸君にして少しの時間を許さるゝならば私が在韓中の所感及經歷二三を諸君の御前に望み極く不遠慮に話したいと思ひます前にも不遠慮にお話しいたした意は極めて不遠慮に自分の考を通り此の會の趣意の指導を仰ぐに在り考へを[illegible]尤もこれから申上る話は三井の小田柿としてなく經濟會の一員として申上るもので御承知願ひたい

私が始めて當地に參りましたのは明治三十五年の四月にして丁度今年今月で滿六ケ年間早掛七年になります私も三井の奉公人となりましてから十七年間各地に轉々致しましたが六ケ年以上一ケ所に止りましたは實に此韓國のみ隨て此國に就て感ずることも最も深い譯であり私の來つた三十五年から三十六年へ掛けて此國に於ては日露勢力爭ひ最も甚だしく其結果三十七年の始に至り遂に日露の開戰となり幸にして此の大戰は陸海とも我全勝に歸し久しく兩國間の紛議となりたる朝鮮問題も漸く其の解决を見るに至り兎に角此國は我の勢力範圍內と確定し引續き日韓協約成立し此國は我が邦の下に屬することゝなり各國公使の撤去統監府の設置等に依り愈々保護の實が現はるゝことゝなる迄の種々面白き活歷史を目擊することを得たのは此盛世に生れた私の幸福で後世子孫に迄で誇ることが出來ます私共は政治外交等に關しては全く不案內にして又門外漢なれば是等に就ては話中上る資格も經驗もござりませんから私は單に自分の職務上已むを得ず探求したる見聞及ぶ所のみを申上ることにしたいと思ひます日露戰爭前迄は此國に於て最も目立ち我々は此國にある各列强の利權に影響を及したる此の爭は各列强の此國に於ける勢力此の爭奪の歷史と申すも差支なかるべし明治廿七八年の日清戰爭迄は勢力利權の爭は日清兩國にして其間に一盛一衰度々の變遷ありたる結果が日清戰爭の破裂となり是も我が國の全勝に歸し右戰爭中此國は我が邦の一人舞臺なりしが廿九年の事變後は日本の勢力全く消散し一時露國の一人舞臺と成りしが一二年ならずして露國の勢力も亦火と消え其間に露國の得たる利權は僅に例の日露戰爭の一つの近因とまで成りたる鴨綠江森林伐採權のみにて其外には今日を別に獲得したる利權を發見すること能はず[illegible]其後日露兩國は引續き烈しく相方何等も得る所なき際に乘じ明治三十二三年頃は米國人の舞臺となり韓廷に取り入り少なからざる利權を獲得したるものゝ如し現に今日「コールブラン、エンド、ボストウイック」の經營する電氣鐵道並電燈電話設に着手したる京城水道の布設並に其外電話布設行設立等五六の利權を得たる米人亦韓廷の特高顧問として米人サンズ氏の屆入れられ巧に韓廷內に活動したるは皆其なり然し米國の勢力も永續せず三十五年より六年に掛けて佛國の勢力宮中を盛にて時の公使プランシー氏は巧に宮中を操縱し其間に得たる利權の重なるものは西北鐵道卽ち京義線鐵道の建設一切並に材料の買入技師の雇入等を一任せしめ又佛國商人ロンドンへ平壤炭鑛の採掘を委任し人參の販賣も同商會に委托せしめんとしたる勢力も度々なりしが佛國が俄に韓廷內に勢力を得るに到りたるは日露同盟の爲め露國は一方に於て日露の爲めに何か利權を得んとすれば忽ち一方より是を打破するの相方何も得る事能はざりしに依り然るに丁度佛國は露佛同盟の爲め露國の反對なきは勿論かと露國が自ら獲得する程に反對なりしが爲め斷く勢力を得たる一原因と思はれます日露兩國の熱度を高め三十六年の末に至り露國が鴨綠江沿岸龍岩浦に永久の設備を成したるが益々我國論を沸騰せしめ遂に三十七年の始に至り未曾有の大戰を開くに至り總て是等の經過を精細に觀察する時は韓廷は或は一國として其勢力を專にする事態は韓廷は決して許さゞる樣必ず之に反抗する他の一國を抑へ操つり互に反目嫉視せしめ又もし幸に何かの事情にて或る一國が韓國に對し勢力を得るに至れば決して永く其の勢力を續けると能はざる樣にせらるゝ其の巧妙の外交手段は殆ど端倪すべからず何人も殆ど此の巧妙の手段に乘ぜらるゝ者はなしと申しても差支なかるべく前に申述べた各列强一盛一衰の歷史を探究すれば明瞭なるべし

日露戰爭前列强の勢力盛衰と其利權獲得の實況を觀て私は在留民總萬を有したる日本人が常に極く少數なる僅かに數人の公領事館員一二の自國商人の外有せざる中には一人も當地に在留の自國商人なき者もあり佛米の如き皆然り此の少數の自國人より有せざる各列强の得たる利權は幾萬の在留民を有する我が日本の上にあり當地に於て私は常に此の有樣を見て實に殘念に堪へざりし各我在留民が他の列强より遙に多數なりしに不拘其得る所の利權は遙に彼等に不及し原因は種々有りしならむも兎に角官民の不和又官は官民は民の間にも互に相排擠して在留官民中に何か少し目立たる利權を得若しくは仕事をなさんとするものあれば他は怒ら之を猜み極力之を打破せんとしたる如き傾ありしは其一原因と考へます他の列强が官民協力何人を問はず自國民が獲得せんとする利權に向ては全力を盡して之を庇護して其の成功を計ると同日の論にあらず最早今日に於ては是等の把憂は或は不用なるべきも此事は單に當韓國のみならず他國に於ても我在留官民の最も深く注意すべき事と考へます是等の弊を防ぐ爲に私は兼てより一つの大きなトラストを形付る要を感じ之れが計畫に着手し居る事も有りました之れは如何なる組織かと申しますれば從來此國の事業に着手しをる者又今後此國に於て何等かの事業をなさんとする者にして其資産信用確實なる者相集り此國の經營（農商工業）に從事し苟も此國の農商工業上必要なるものは凡て經營に着手したと〈差當り不利益の事業も他方に於て有利の仕事を皆ひたる入合せとして之に從事し且成功を計らしむるにあり（未完）

●仁川開港紀念祭と稅關

來月仁川に開催さるべき開港二十五年紀念祭に就き仁川稅關は最も此の紀念には關係深きを以て何かの催しをなさんと寄々協議中なりしが愈々來月十日の日曜を卜し同稅關の埋築地（一萬坪）に於て大園遊會を開催することに決したるが仁川燈臺局、稅關工事部仁川出張所、光濟號乘組員等合併して頗る大仕掛の園遊會を開く由なるが仁川稅關にては紀念として二葉の繪葉書を印行し一葉にて二十五年間の貿易統計を刷り他の一葉には舊廳舍の全圖と宮木稅關長の肖像を印刷したるものなりと而して餘興には例の日本藝妓及妓生の舞踏ありて頗る盛なるものなるべしと云ふ

●オハヨーの仁川終航　日本郵船會社にて從來韓國航路としてはアメリカントレーデンカンパニーの持船第一オハヨー號一隻を以て之れに充て居りしが今回同船は船主の都合により阪神間の航路を廢することに決し本日仁川に入港すべき同船を以て韓國航路終航としたれば北清航路船なる高砂、酒田の兩船の外航と神戸北清航路船なる山東丸の往復寄港するのみとなれり

●日高書記官の學校視察　既報の如く來京中の日高內大臣秘書官は二十四日普通學校、師範學校、外國語學校等を巡視し且つ途次私立明進女學校にも立寄りたるが各學校共學徒が短日月の修學なるに拘はらず日本語に熟達し其の讀み方談話等に巧みなりしには非常に感賞し居たりと云ふ

●學部大臣歸京　一昨日歸京の筈なりし李學部大臣遞谷書記官原編輯局長の一行は一昨夜水原に一泊し同日午後一時四十三分南大門着列車にて歸京せり

●金議長の統監府訪問　新任中樞院議長金允植及び兪吉濬兩氏は昨日午後一時統監府に鶴原長官石塚參與官を訪問せり

●口分田軍醫の轉任　駐韓憲兵隊附二等軍醫口分田文雄氏は鎭海灣要塞司令部附を命せられ昨日午前八時出發赴任したり

●稅關貨物運搬請負　仁川稅關にては從來同構內中貨物運搬は稅關にてなし居たるが今回木村組に之れを請負はしめ從來一個二錢の運搬賃なりしが一錢五厘に運搬せしむることになりたりと

●日本橋衞生組合　同組合は例年の如く其總會と懇親會とを一昨廿六日南山日本公園に於て開催せり組長池田長兵衞氏より昨年度中の事務及び會計の報告ありて了つて役員の選擧を行ひたるに池田氏組長に大坪氏副に伊藤、河內山の兩氏協議員に何れも再選せられたり總會後の親睦會へは組合町內の男女老幼相携へて出席し其數五百有餘清遊を恣にしたり來賓には熊谷民長、桐原署長、中村、秋吉、曾我等の諸氏あり記者思ふに衞生の名の下に町內斯打側ふて和合一致するは甚だ喜ぶべき事と云ふべし因に同組合の基金現在は千八百五十六圓なりと云ふ

●近事片々

▲氷宣　君新聞組織に色氣たつぷりと聞く夫かあらぬか近頃東奔西馳席温かならずと

▲同君　の伊藤長谷川の招待謝邀も或は之が爲か祖父大院君に傚て政治運動柄になし

▲人物　に非難多かりしも大院君は一代の梟雄此人にして始て人心を收攬し得たる也

▲總理　完用某公爵より負債云々にて環擲統監を訪ふと聞く睦請談判の消息聞まほし

▲現閣　崩壞に瀕して完用運利の腕押はれむとす允用亦拔らず窮鼠猫に對するの觀あ

▲現閣　破壞新聞組織は伊公の所謂三大事件の一ならむ油斷して逆襲受けずんば幸也

▲伊公　東上歸任每に內閣更迭は定例也と韓政客評して後任選拔の時飛到に言囃さる

▲三大　條件の殘る二件は何ぞ暴徒鎭撫亦た其一ならむ太皇帝誘引の說は最早立消乎

▲伊公　たるもの何か一ツ目醒しき事を爲さむとは一般の期待大山鳴動して鼠一疋乎

▲北韓　開拓問題世の注意を惹く漿商黨の竹越望月松本繃て總撰擧後北韓に來らむと

▲三叉　鷺溪春雪共に長廣舌北韓開拓急務を叫ぶ好吹聽者也廣目疑に幾る効能あらむ

▲韓國　高等女學校に招聘する板野と〈子溝部つな子共に斷職に經驗ある良淑女なり

▲名媛　の海外に招聘さるゝものもし行を愼み良き師範として大和撫子の譽を揚げよ

▲犬猿　啻ならざりし楠瀨熊谷共に狎妓を拉して歌舞伎を見る滿都の新聞不思議がる

▲後藤　滿鐵に收入るは議論ヶ關はして屆せむにありと滿都の新聞珍し相に書立る

▲梟の　豪放磊背は奇拔にして稜なる所に惚れ込む病院長時代より此事有今更ならず

▲印度　北境回教徒の騷亂英國大兵を動さんと何れの蠻民も鎭壓すべく懷柔す可らず

▲丹後　雄鶴任飛揚風の婦人夜中潛に柳行李を人車に乘せ去り紅涙滋々総に之を捨つ

▲村八　行李を開く遺留衣類あり嬰兒を抱き驗すれば全身銀色の鱗あり亦造化の戲乎

開城まで（四）

梅まど

●汶山驛

四五丁向ふに百戸ばかりの人家が見ねる即ち汶山浦で驛の名はこれから號けたのであらう此の驛で烟草や菓子や平野水などを賣つて居る

驛の附近に二三の日本小兒が遊んで居る彼等の教育は如何にすべきかの疑問を放つと

チョンガー『開城の學校に通學するのです汽車賃は小學生は無料です併しながら其の恩典は日本人のみにあつて韓人は預かることが出來ぬのです實に不公平の處置です』

と憤慨して答ねる

『夫れは了簡が違つて居る汶山浦に戸數の百もあれば學齡兒童も四十や五十は居るに相違ない自から學校を建つればよいのだ日本人は今日少數にて一學校を維持することが出來ぬから已むを得ず開城へ通學するも爰に二三十人の生徒が出來れば餘ちに學校を建築するのだ』

と數うると處程と合點するかと思ひの外大に反抗の態度を作して

チョンガー『日人は常に韓人を無智蒙昧と言つて是れを教導するとか扶掖するとか保護してやるとか大きなことを計り言つて何を教導して居るか何を扶掖して居るか何を保護して居るか私は少しも是れを見出さぬのである啻に是れを爲さぬのみならず近き例は警察官吏の如きは韓國の俸給を食んで日人を保護して居るではありませぬか汽車の如きは韓國の土地を買して利益を專有して居るではありませぬか韓人自から學校を建てゝ子弟を教育する程なら日本の御世話にはならぬのであります』

是れを聞きて啻に予の呆然たるのみならず相乘りの客も韓人の度し難きを歎ずるの面持にてチョンガーの顏を見つめて居る予は彼を諭すべく口を開いて

『韓人がそんな考を持つて居るから困るのだ殊に汝は一を知つて其の二を知らぬから間違つたことばかり言ふのだ日本は幾百萬圓といふ金を韓國に無利足無期限で貸して教育、衞生、實業の改善發達を扶けて居る年々多大の貸金を損じて政治を扶けて居る……』

話のなかばに汽車は隧道に這入つて點火の用意なきために暗黑界となり折角の說法も闇に葬られてしまつた

夫れから間もなくして

●臨津江驛

に着くと此所には線路變更の修築をやつて居る

鐵橋がある今のものは假橋であつて目下本物の新築中である其の新築の橋の長さは一千八百尺だとチョンガーが語る

●長端驛

これも寂寞たる所である此の附近は大豆の產地といふことであるが今は其の時期でないから耕作の有樣は見ることが出來ぬ

遙か向ふに當つて高い山が見ねるこれが開城の山じやとチョンガーが教ねる

●雷管爆發す

▲仁川京町の慘事

春眠曉を覺ねず人は漸く濃かなる甘夢より醒んとする昨日午前七時頃突如仁川京町に於て一發の怪音轟然として四邊に響き硝煙濛々咫尺を辨せざる有樣に附近の人々はスワ大事の起りたれ時節柄暴徒の來襲せるにはあらずやと手に／＼棍棒又は得物を携へて現場に駈け付けしに無慘無慘

▲滿身血に染みたる 韓人の屍骸三個虚空を掴んで横はり碧血滾々として杵を環はすが如く四邊一面は紅の海と化し慘憺たる光景は一見人をして身の毛もよ立たゝしむる程なりしが折柄此の急報に接して出張したる當番巡查は事態容易ならずと雨を飛んで驅せ付けたり

▲負傷者外に三名 出張の警官は早速應急の手當てを施し一方現場の有樣に就き種々取り調べたる處更に外に三名の負傷者を發見したるが内一名は極めて重傷者にて殆んど眼も當てられず腕は挫かれ膝は折れ早や既に虫の息なりき

▲原因は雷管の爆發 にて初め此の家の主人京町三丁目居住金成玉及同人弟金成用の兩名が自宅の店頭にて例の長煙管を咬ねながら仕事を爲し居りし際折柄三人韓童來りておちきん此の品物を買ひませんかと異りて鑰と鐵とにて作りたる丸き形のものを示したれば弟の成用は何物ならんと手に取り見しに何にかは知らねど割合に重もければ何れ貴重なる物品ならんとは思ひしも品質更に判明せざれば試みに傍に有り合ふ鐵槌にて輕く打ち叩きたるに這は如何に轟然たる一發の響を發して爆烈したるものなりと

▲何處より持ち來りたるか 右の三名の韓童は新昌洞十二統八戸朴汝成の倅朴福卒(十三)及び同人の兄應賀(十四)並に妹光賀(十一)なるが最初件の物品を手渡せしは朴福卒にて斯かる危險なる物品を何處より持ち來れるかは右三名共重傷なるを以て詳かに知るを得ざれども察するに過日來日本人町に於て淸潔法施行の際何れの家よりか塵芥に紛れて廢棄てたるを件の小兒等が拾ひ取り物珍らしさに自宅に持ち歸りたるも玩具どしては相應しからず寧ろ之を他に賣りて錢に代ね菓子にても購はんものをと斯くは兄弟三人にて賣りに來りたるものならんと

▲即死三重傷三 其の場にて即死せるは金成玉、朴福賀、朴發夫の三名にして重傷を負ひたるは金成用、朴福賀、光賀の三名なり而して右重傷者は早速高木病院に收容せしが多分生命は覺束なかるべしと

●婦女誘拐者現はる

南部警察署が襲きに市內各所の魔窟に制裁壓迫を加へて居留地風紀の一端を廓清せんどしてより彼の曖昧飲食店等は何れも假かに恐慌を來して少なからず影響を受け隨て一部墮落の淵に身を沈めたる婦女即ち密淫賣婦等に多少正業に從ふ機會を與ねしめんとするものある時何地より入り込みたるか二三の婦女誘拐者當京城に現はれ窃かに其の筋の眼を潛りて多數の婦女――其の大部分は曖昧屋に雇はれて既に其の身を汚し居る者なれど――を誘拐し既に一部分は目的地に向ひ出發せしめ尙目下種々の手段を運らし盛んに誘拐を試みつゝありと云ふ而ふして彼等誘拐者の手先きとなりて諸方面の婦女を欺瞞せんとする者には本町一丁目の某旅館壽町一丁目の某旅館等あり尙旭町二丁目邊に常に斯かる事に關係はりて不當の利を貪る惡婆あり此の者も亦今回の誘拐に就て非常に斡旋し居り其他本町一丁目長谷川町通りの某餾飩屋の主婦も亦其の手先きとなり居る者の如しと云ふ而して彼等が目的地と云ふは或は浦鹽と謂ひ或は間島と云へど浦鹽は目下不景氣の絶頂にありて往々商店を閉鎖して各本國に引揚ぐる者もある程なれば今回誘拐されたる者は多分間島若しくば濟津方面に向ふ者ならんと謂ふ南部警察署にては此の事を聞き込むや直ちに夫れ／＼手配を定めて目下嚴探中なりと謂へば是等の惡漢が果して目的通り多數の婦女を誘拐し得るや否やは疑問なれど兎に角此の際心ある者は決して彼等の甘言に迷ひて生涯を再び浮ぶ瀨なき悲慘の境に沈むることなからん樣注意すべきなり

●石油を井戸に注ぐ 去る二十七日の午前八時頃南山町二丁目の筑紫館の雇人洪三(十八)といへるチョンガーが同町植村病院と本間忠三郎との共同井戸に水汲に行きし處病院の車夫が目下水涸れて自用にさへ不充分につき他へは一滴たりともやることは不相成といひしに洪三は強情にも勝手に水を汲まん／＼するより車夫は其の横面を毆つて押し除けたり洪三は筑紫館に歸るや間もなくしてビール瓶に石油を入れて來り井戸の中に投入したるを本間忠三郎の家族が見付け直ちに引捕へて南署へ連れ行きたるが洪三は例の朝鮮一流の詐欺を以て主人の命によりこれを爲したりといへど多分はわが毆打せられしを遺恨に思ひ復讐的に爲せし者也

●花下の喧嘩 桃洞廿三統充全斗(廿三)は一昨日ビール瓶に朝鮮酒を携へて奬忠壇へと赴きソレを飲みながら四邊の景色を眺め日本人の遊び狂ふ態に他愛もなく見取れ居りしが醉の廻るに連れて氣も大きくなり自分も其の仲間に入らんものをと居作の廻らぬ舌にて何にやら物言ひしを中に試卑の若者鈴木某なるもの自分の仲間と惡口せしものと思ひ突然鐵拳を揮つて充の橫面を擲りしかば韓人も負けては居らず相方組み打ちとなり下を下へと揉み合ふ中鈴木の形勢ダン／＼と危くなりしより傍に見物し居りし仲間の者が大勢寄つて群つて充を目茶苦茶に毆打せしかば充は少しく負傷せしより其の旨警察へ訴へ出でんと救聞き居由

●喧嘩を吹きかける 長崎縣下縣郡岩原村の者にて慶尙道秋風嶺に在住する樋口健(二十)といへるは去る二十六日本町三丁目の辻屋の前に於て長崎縣の吉富寅一郎が今一人と談話しつゝ通行する其の談話を聞き咎めて喧嘩を吹きかけ寅一郎を毆打したるより寅一郎は承知せず其の手を引つ捕へて警察署へ連れ行き事の次第を訴へ出たるが打節健は大に酩酊し居れるを以て留置かれ醉の醒むるを待つて說諭放還せられたり

●韓妻錄第一號 統監府の二本筋さ云へば何れは倭城台か南山町あたりに住み玉ふ方なるべし山中とか畑中とか云ひて名士濟々の統監府にありても可なり羽振の利く人なりとか此の人猛將の下弱卒なしの譬に漏れず公務に倦たる時折は花川欄翠は申すに及ばず新町の其所此處にて相手撰ばぬ浮名を流したる程の者糟糠の細君をして獨寢の閑寂しさを嘆たしめたることも幾度び哀れ金筋に威嚴は法度、何事も當世はグウッさ開けて濁併呑、上の好ませ玉ふ處下また之に習ふが上分別。嫁に固くろしくなると何等旅情を慰むるに足るべき者としても無き韓國にありては命が縮むと云ふもの浮世は二錢五分の白銅貨が欲しいばかりに朝鮮三界迄來た者の夫れかと云ひて多く得て多く散ずるは素これ英雄の心事内君敢て齢く勿れ斯う見ても我輩は統監府の高等官何のた前一人を養はずとも好きながあれば幾人にても決して否みはせぬと醉興に氾方も無い事を喋舌つて貞淑なる内君をいぢめつゝありしが其の醉興が何時か事實となりて可哀相にも多年忠實なる内君は秋の扇一昨日來ひど捨てられたるが變り合ひて北の方に据りたるはそんぢよ其處らに仲居を勤め居りたるれ何と云ふ阿婆擢れ運よく玉の輿に乘り得たる光榮を擔ひては此處が一世一代怪腕の振い時と去なきだに帶がダラン無くなりたがるを此處が卽ち高等官夫人のたしなみ處と出たいれ屁を我慢するより最少し苦しい思ひをしてキチンと帶を締め居れば一方金筋殿は此上なくも重寶がりて兎角女は苦勞人に限ると際涯も無く恐悅至極今年春着には石に金指輪など四多多寡はすんでやりたる上自分は異岡の五ツ紋にご辛棒し年末の賞與は剩さず殘らず悉皆た何の方の調度に費やしたる程のれ覺ね嚴で芽出度く役所の退庭たる後はヤレ／＼と硯箱の中なる認印すら取放す我家に歸れば下女の手前眞闘の五ツ紋に之れが統監府の高等官ぶと威嚴を見せんとすれど長火鉢の前にれ何の方さ差向ひては何時とは無し威嚴は目尻と共にズラリと下りて近所隣りの人までがチョ忌々しと舌打ちするも耳に入り玉はずさは誠に以て結構のことにぞある

●飮食店荒し 廣島縣豊田郡大長村の者にて大和町一丁目に住する多保敬松は去る二十三日の夜黑木と僞名し岡野と稱する者と兩名相携ねて長谷川町の料理店初音亭に登り一圓八十錢の飮食代を支拂はざるのみならず酌婦の吉田フシを親族の者なりと稱し强て連れ出し此の女に淫賣させた科料に一十圓を出せ夫れを出さねば此の家を叩き破してやるなどゝ暴言を放ち最後に百八十圓を明晩までに調達して置けと言ひ捨てゝ去り前項記載の如く目下酌婦の大誘拐を爲すものもある折柄とて同亭にては大に恐怖し居れりといふ

●至文高等女學校 東京牛込市ヶ谷河田町の私立至文高等女學校は今回新學年校外生を募集中なるが校外生の學期は二ヶ年に分ちありて本校の一ヶ年の課程を半ヶ年にて修學せしめ二ヶ年にて高等女學校全科の課程を修學せしむるものにて學費は一ヶ月四十錢なりと云ふ

●天然痘發生 岡山縣平民平野三五郎長女隣町六十一番戸葛下市松方下女平野セン(二十)は一昨日天然痘に罹り青坡病院に收容されたり

●本町座本日の藝題 は「濱千鳥」五幕にして重なる役割は左の如し
陸軍步兵中尉花房義文(伊東)院長本條博士(原口)車夫長吉(大山)妹芳子(桂)姉秋子(吉野)小杉寛(芳川)馬丁金次(山路)平田重內(小泉)町田甚七(秋島)守島亮平(酒本)長吉の妻れ鶴(北秋)町田良太郎(平野)